

# 科技高 いきもの記

Vol.55 2022.7.12

生物教員 佐藤龍平

## 日本最大級のテントウムシ カメノコテントウ

いつものように、帰りに猿江公園を歩いていると、足元を見慣れない虫が歩いているのがほんの一瞬目に入った。なんだろうなあ...と思いながらも、その日は急いでいたので足を止めなかった。が、5歩くらい進んだところでやっぱり思いとどまった。絶対見たことない虫だよな...。これ、通り過ぎたら後悔するやつだ！すぐさま戻ってみると、そいつは妙にデカイテントウムシの幼虫だった。「このデカさ...まさかカメノコテントウ?! いやまさか...」と目を疑ったが、調べてみると紛れもなく日本最大級のテントウムシ「カメノコテントウ」の幼虫であることが分かった。猿江にもいたのか...。「まさか」と思ったのは、その大きさのせいだ。カメノコテントウほどの大きいテントウムシが今まで見つからない訳がないと思ったのだ。すぐさま虫に詳しいタツキに聞いてみたが、タツキも猿江では見たことがないと言う。猿江公園のポテンシャルはまだまだ計り知れない。

カメノコテントウは、ヤナギにつくヤナギハムシなどの幼虫を食べると凶鑑にあった。そこで、猿江のシダレヤナギを調べてみたら、いとも簡単にカメノコテントウの幼虫を複数見つけることができた。まだまだ、全然見えていないなあ。毎日のように通っている道なのに、意識を変えるだけでこうも見えるものが変わってくる。

幼虫を生物室に持ち帰り、羽化を待ってみた。6月3日の夕方、ケースを覗くと、美しいオレンジ色の成虫が現れていた。同じ頃、猿江公園を見にいくと、続々と成虫が現れ始めていた。でも、数日後には成虫の姿が見当たらなくなりました。どうやら羽化したらすぐ、木の高いところなどのどこか目の届かない場所へ移動してしまうようなのだ。生き物との出会いは、タイミングも重要だということを改めて実感した。出会いを増やしたければ、同じフィールドに飽きずに足繁く通い続けるしかないだろう。



羽化直後のカメノコテントウ 2022.6.3

この段階ではまだ斑紋は現れていない。全体が鮮やかなオレンジ色で大変美しい。



猿江公園のカメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota*  
体長約12mm。ナミテントウの1.5~2倍近い大きさだ。独特の模様は亀の甲羅を思わせるので「亀の子」の名前がついている。



カメノコテントウの幼虫 ハムシの幼虫を食べる。猿江公園ではシダレヤナギにつくヤナギリハムシの幼虫を捕食していた。



カメノコテントウの蛹 蛹も他のテントウムシより大型。黒っぽい蛹が目立つものもあったが、成虫になったらどちらもほとんど模様は変わらなかった。



黒っぽい蛹



正面から見た様子  
テントウムシの眼はこの位置にある。